【室戸のみなさんへのメッセージ】伊東英朗

室戸の皆さんこんにちは。
私は、映画Ｘ年後を製作しました伊東と申します。

まずは、この事件によって亡くなった方々のご冥福をお祈りいたします。

今日は、室戸市で上映会をして頂けるという事、本当に本当にうれしく思っています。
初めて室戸で上映が行われるということを聞いたとき、飛び上がって喜びました。
本来なら、何日か前からそちらに伺い、お手伝いもしたいし、皆さんにも会ってお話も聞きたいのですが、
ちょうど、大型番組の製作の最終編集を東京で行っていて、行く事ができず、本当に残念でたまりません。

私にとって、室戸は、最も重要な場所です。９年前にこの事件の取材を始めたのも室戸でした。
以来、何十回と室戸に足を運び、多くの皆さんからお話を聞き、映画を作る事ができました。

９年前から取材をはじめ、毎年１時間番組を作り放送してきました。
それは、６０年前に起こった事件によって、大変な数の人が被ばくし、亡くなっている事を
黙ってみていられなかったからです。そのことを考えると悔しくて悔しくてたまりません。

しかし、７年間は、誰にも見向きもされず、放送しても何の反応もないのが現実でした。
何度も取材をやめようと思いました。

ところが、２０１１年３月の原発事故を受け、人々の意識が変わり、
被ばく事件に関心が高まり、そのことで、この事件を映画化することができました。

日本の被ばく船の３分の１が所属すると言われる高知県の室戸での上映は歴史的な事だと思います。
室戸から声を上げ、日本中にいる被ばく者を政府に認めさせ、何らかの補償を勝ち取る必要があります。
室戸からの声が届くよう、私は、この事件を映像化し、事件が解決するまで発信していくつもりです。

現在までに全国の１００カ所以上で上映が行われ、まだまだ続いています。
私も可能な限り、駆けつけ、事件の解明にむけてお話させて頂いてます。

私は、現在、このＸ年後の続編を３月完成に向け、準備を始めています。
国連や海外の研究者など、海外からの問い合わせも多数あります。

１回きりのテレビでは、どうしても限界があります。
映画として、国内にとどまらない息の長い発信をしていかなければ事件の解決は難しい事を、
この１０年間の放送活動で身にしみて分かりました。

室戸での意識の高まりを受け、再度、１０年目の取材に入りたいと考えています。
その時は、ぜひ、ご協力を頂けますと幸いです。
ともに、室戸から世界に発信していきましょう。